

地域で暮らす 保健・医療・介護

ぼたんの会浜田支部

2023/12/15

浜田保健所

中本 稔

E-mail nakamoto-minoru@pref.shimane.lg.jp

本日の話

地域を〇〇〇

保健師の地区活動 永井論文

データから地域を診る、見る、やってみる
松田分析

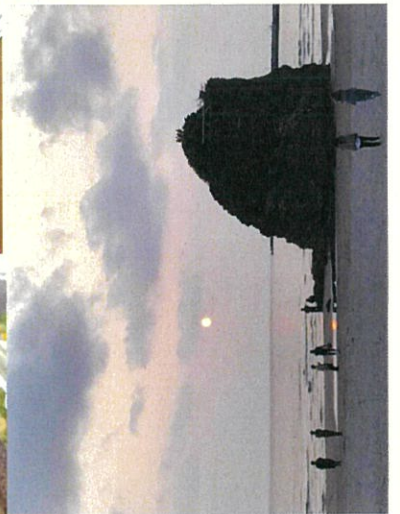
まちのすがた

- 新型コロナウイルス感染症は3年間続いた。
実は、今も第9波の真っ只申終わったかな？
- 8年ぶりに浜田保健所勤務
出生数が減った 働き盛りの人口減った
医療体制（医師看護師数がきびしい）
前期高齢者・後期高齢者は増えている

出雲の空



日常の風景 その一瞬かも



人の営み、生活が見えてくる瞬間

浜田のまちを思い浮かべるとき

何を思い浮かべますか？

自然

建物

ひと

音や香り

- まちの良さはなんだろうか？
もちろん**住みごちの悪いもの**もある

一方で、こんなまちは嫌だ！

大好きな人に、嫌われた。失恋した。

仕事の同僚や上司に、いじめられた。

大失敗をしてしまった。まちを追われた？
「おまえなんか、どっかに行ってしまえ！」

自治体保健師のための地区活動評価尺度の開発
永井ら 日公衛学会誌70(11)759-774, 2023

- ・方法 ①フォーカス・グループ・インタビュー ②全国保健師
- ・対象 2074人 50万～ 20-50万 5-20万 5-20万 ～5万
986 421 513 154
- ・回答 721人 282 150 220 69
- ・調査 地区活動の内容に関する項目 18
地区活動に伴う保健師の認識 14
組織体制に関する項目 15
保健師の道徳的能力尺度 MCQ-PHN (Asaharaら) 15
行政保健師の職業的アイデンティティ尺度 PISP (根岸ら) 37
- ・分析 因子分析、確認は共分散構造分析
- ・結果

自治体保健師のための地区活動評価尺度の開発
(2) 保健師の認識

- 保健師としての充実感 (3)**
私は保健師の仕事から達成感を得られる
私は保健師の仕事に満足している
私は保健師の活動が楽しい
地域/地区住民への愛着 (4)
私は住民とつながることができる
私は地域地区への愛着がある
私は住民に対して何ができるか、常に考えている
私は住民の力を信じていることができる

地域/地区住民との一体感 (4)
私は住民と相談し合える関係である
私は住民から頼りにされている
私はいつでも住民とともに存在する
地域/地区住民の間につながりができていると思う

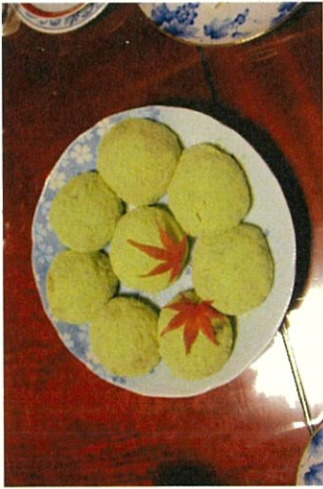
自治体保健師のための地区活動評価尺度の開発
(1) 地区活動の内容

- 地域/地区の特性を考えた活動 (8)**
地区診断に基づき、重点課題や活動方法の検討
個人支援を地域/地区活動に発展させている
保健師活動成果を住民に知らせる努力している
保健師の存在や活動を住民に知らせる努力している
地域/地区の将来の姿を考えて活動している
個人の課題から地域/地区の課題をみつけている
個人と地域/地区の両面からみている
住民や関係者と同じ目的を持っている
- 住民とのつながりを求める活動 (6)**
出向くことを意識して行っている
つながるきっかけを意識してつくっている
住民と話し合いながら活動を進めている
住民から地域の情報を得ている
住民と一緒に課題を考えている
- 地域/地区という単位を意識した活動 (3)**
特性(自然、資源)を考えて活動している
特性(暮らし、文化、風習)を考えて活動している
住民を集団として捉えている

自治体保健師のための地区活動評価尺度の開発
(3) 組織体制

- 組織方針の明確さ (5)**
上司や統括的立場の保健師に保健活動についての明確な考えがある
所属する自治体全体に、保健活動と連携する地域地区づくりの方針・体制がある
保健師が、地域地区を集団と捉えて保健活動を行うための研修を受ける機会がある
保健師が地域/地区活動について、上司や統括的立場の保健師と話し合う環境がある
保健師の活動が、所属機関の多職種から理解されている
- 地域/地区の情報共有の機会の確保 (8)**
保健師が地域/地区の課題を他の保健師と共有する機会がある
保健師が地域/地区の課題を多職種や関係機関と共有する機会がある
地区活動担当者の情報共有・相談の場所として定期的なミーティングがある
保健師は自分の地域/地区の活動計画を立案している
保健師の地域/地区活動について、住民に対し広報や知らせる機会がある
日常的に保健師相互の情報共有・相談支援の機会がある
保健師の定例会や研修が行われている
(部内会議、セクター連絡会、I/I7連絡会、事業ごとの連絡会、支所構成職員との会議など)
保健師が地域/地区活動に専念することができる体制がある

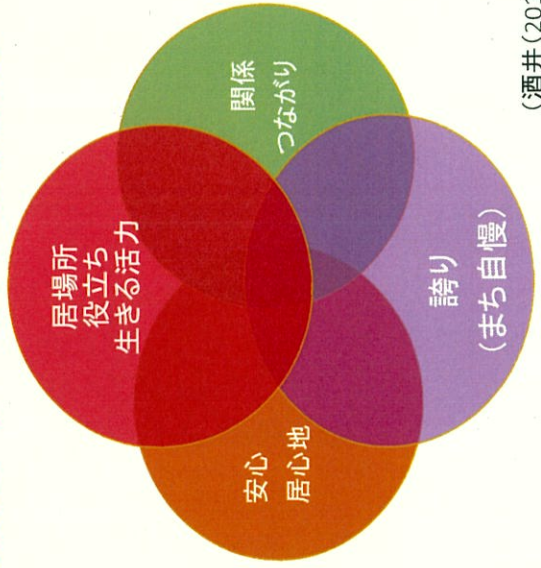
ある日のデザート



こころ通う人と、
一緒に食べる楽しい瞬間

地域への愛着

「このまちに ずーっと 住み続けたいですか？」



(酒井 (2016) を改変)

地域への愛着尺度 (酒井ら、日本公衆衛生誌、63(11)664-674、2016)

対象 東京近郊 n=583、平均年齢60.4±5.4才、男44.9%女55.1%
持ち家(戸建59%、集合33%)、賃貸(戸建0.7%、集合7%)
居住平均21.6±12.9年

地域愛着の尺度4軸(因子分析)

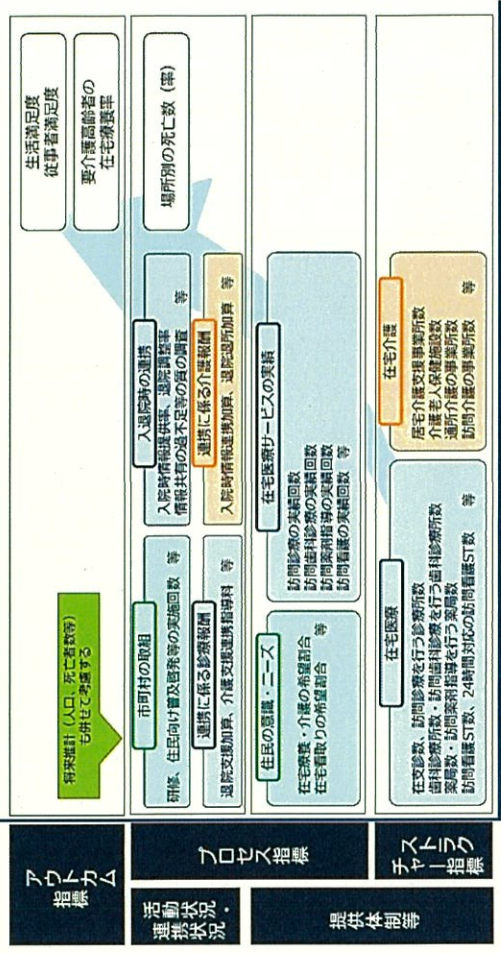
「居場所・役立ち、生きるための活力」この地域で元気、楽しみ、生きがい
「関係」人とのつながりが大切、挨拶世間話、行事
「安心・居心地」自分らしく暮らせる、安心、居心地良い、大切な思い出
「誇り」町を良くしたい、良さを守りたい、住民であること誇りに思う

4軸はそれぞれ、

「ソーシャルサポート」「居住年数」「持ち家」「地域活動への参加」と相関(p<0.01、p<0.001)

在宅医療・介護連携推進事業における指標のイメージ(案)

○ 地域の課題や取組に応じて、必要な評価指標を検討、選択することが重要。



※実施例は「福岡県高橋町(石井)」など人口数で比較するようとして、指標の異なる市町村間での比較は行わないようにする必要がある
 出所) 地域包括ケアシステムの構築に向けた地域連携事業における在宅医療・介護連携推進事業の現状および先進事例に関する調査研究(2016年)
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061944.html>
 (平成28年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健研修推進費事業 町村協会の研究) 2

介護保険・地域支援事業の評価指標の構造

Quality of Lifeの指標 主観的健康感 地域愛着等		アウトカム指標	
健康の指標 要介護認定・新規認定 65歳以上申請者数、割合 (要支援・要介護度別)	関係性の指標 ニーズ調査 信頼、互酬	組織・資源 環境の指標 住民意見集約・参画、あらゆる関係者へ働きかけ 地域資源の把握、行政課題の整理、 長期的視点・具体的戦略、苦情や事故の把握、 共有する情報の範囲、管理、活用等の取り決め	プロセス指標
生活習慣や行動の指標 ニーズ調査等による健康指標 運動、口腔、栄養、認知、閉じこもり、うつ	社会参加の指標 ニーズ調査 社会参加状況	事業量の指標 65歳以上参加者数および割合、住民主体の通いの場マップづくり 講義会相談会の開催回数、参加者数、イベント、ボランティア開催数、参加者数 (介護予防ケアマネジスト依頼件数、介護予防生活支援サービス事業の実施状況)	アウトカム指標
学習の指標 講演、相談会 ボランティア養成研修		基盤整備の指標 包括ケア構築に向けた基本方針、目的をわかりやすく説明できる職員や資料 目的を共有し推進するための他部署との連携 地域包括支援センターと広く連携する体制、 協議体を設置し多様な主体による多様なサービスの提供	アウトカム指標

馬を通じた障がい者施策、まちづくり ～益田の取り組み 2018年12月

背景：地域の資源

馬事公苑があった。特別支援教育も利用
益田競馬場があった。飼育の経験
精神医療には動物介在療法（作業療法）
浜田金城に観光馬、飛行場が近い、土地広い
東京農業大学、しまねリハビリ

事業：事業の組み合わせ

医 精神疾患患者の馬介在療法（診療報酬）
福 障がい者A型事業所、GH（益田市の委託）
学 放課後預かり（益田市教育委員会）
産 厩舎やA型、GHの職員の採用、障がい者の雇用

展開：継続のために

クラウドファンディング「井戸掘り」（大量の水の確保）
JRA 競馬馬の競技後の生き方（馬生？役立ち）
馬主には馬を持つ経費安い（飛行場近いことは都会の富裕層へ）
馬介在療法のエビデンス
障がい者が専門能力を持つ前例に
地域の文化 祭り（流鏝馬、馬奉納）に参加

行政の都合

資源を投入して、どれだけ、幸せがつかめるか

高齢者であろうと、障がい者であろうと、男であろうと、女であろうと、LGBTXであろうと、地域での活動、参加が、この地域の幸福につながるか
この地で長く暮らしたいと思えるか

事業活動を通して、

このまちに暮らす人びとが幸せになることを期待
住み続けてもらうことを期待

ひとは何のために生きる？

高橋源一郎（毎日新聞 人生相談）

ひとは、自由と自立のために生きる。

一方で、

ひとりよがりですべてを追求することはできない。

誰かの支えがあって、成長し、資源をもち、

誰かと一緒に、幸福をつかむ。

こころ通う場面を
積み重ねながら
この地で暮らしている
という実感

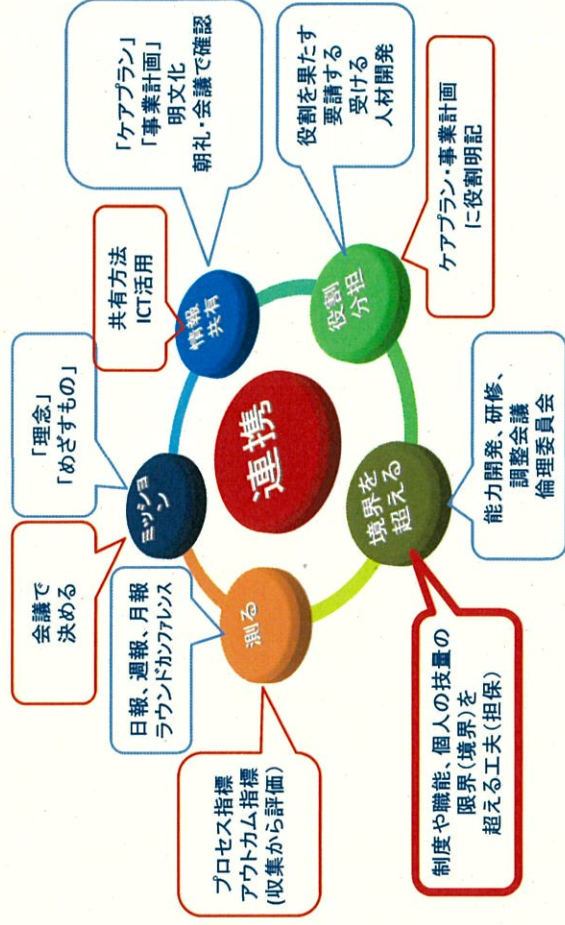


地域を診る、連携を見る、医療介護の質を視る
産業医科大学 松田教授

診療報酬DPCから始まったメガデータ分析
EMITAS-G 診療報酬、介護報酬、特定健診

SCR(年齢調整標準化レセプト出現比)
島根の在宅医療
(脳)心、骨折、肺炎の前と後
介護度別の疾患管理

コミュニケーション力を高めつつ、
真の“組織内連携”を進める (加藤2015, 中本改)



生きているだけで、
一人ひとりが役割を果たしている。
私やあなたが、「ひと」という資源
ありがとうございました

